

仲間意識を育てる保育の あり方について考える



社会福祉法人 愛護会

第二東水沢保育園

保育士 及川 香澄

1. 研究主題

仲間意識を育てる保育のあり方について考える

2. 主題設定の理由

保育所保育指針の人間関係には、『保育所生活を楽しみ、自分の力で行動することの充実感を味わう』とねらいがあり、内容では『自分の思ったことを相手に伝え、相手の思っていることに気付く』『友だちの良さに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう』『友だちと一緒に活動する中で、共通の目的を見出し、協力して物事をやり遂げようとする気持ちを持つ』と記されている。

我がクラスを見ると、仲の良い友達との関係は深まっているが、ほかの友達とのかかわりは言葉がきつかったり、思いを押し通そうとする姿が見られクラス全体での仲間意識が育っていないように感じられる。また、なかなか気持ちを出せなかったり、自信がなく新しいことに対して不安な表情が見られる子もいる。

一人ひとりが自発的に、主体的に活動できるような保育の工夫、また、友だちと一緒に遊びを進めたり、行事に向かっていく中で友達の良さを知り、認め合い、仲間なんだという意識をしっかりと持たせる援助のあり方を探っていくことで、クラス集団を高めることにつながるのではないかと考え本テーマを設定した。

3. 研究のねらい

- 様々な活動や体験に取り組む中で話し合いを行い、友だちとの関わりを深め、思いやり、仲間意識を持たせる。
- 自発的に活動へ取り組み一つのものに向かってやり遂げる達成感、充実感を持たせることで、クラス集団を育てる。

4. 研究の仮説

- グループやクラス全体での話し合いを大切に支援をすることで、相手の意見を受け入れられたり、協力し合ったりすることにより友達同士のつながりが深まり、仲間意識も高まるのではないかと。
- 自分たちで考えた、みんながいるからできたと思える経験を多く与えることにより、自信につながるとともに友達との関係も深まりクラス集団も高まるのではないかと。

5. 研究内容

- ・ クラスでの活動、話し合いを通して仲間との関わりが深まるような保育の展開をしていく。
- ・ 体験したことをあそびにとりいれ、一緒に活動することにより協力することの楽しさ、おもしろさを味わいながら意欲を高め仲間意識を育てていく。

6. 研究実践 1

私の園では、毎年一年を通し、1つのお話に保育の流れをのせ活動しているが、今年のお話は一寸法師となった。一寸法師のお話を通して、子どもたちに大きな夢を持たせたい。その実現のためには勇気を出して行動する力を持ってほしいと願い1年のテーマとした。

今年のテーマの一寸法師の気持ちを感じられるようにと、園内合宿の中でも川に関わることを子どもたちに体験させてあげたいと考えた。

《園内合宿に向けての活動から》

『川に行こう』

身近な生活の中からは散歩に出かけ川があるところに行き、子どもたちに、川ってどのようになっているのかな？どんな川があるのかな？川には何があるのかな？など、興味をもてるよう働きかけ、保育園の周辺にある川や水路など、水が流れているところをすべて子どもたちに知らせることで“川”を気づかせる。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・ 子ども達の中に“川”への関心が薄い。・ 散歩に出かけると「川がある」「小さな魚がいた」と気づくことが出来るようになる。・ 「大きいね。」「あそこから曲がってる。」「どこまで行くんだろう？」と川の違い、変化など意識してみる。	<ul style="list-style-type: none">・ 一寸法師の絵本や川が出てくる絵本を意識的に読み聞かせをし散歩に出かける。・ 散歩で気づいたことをクラスのみんなに伝え川をもっと身近に感じられるようにと思い、帰りの会で発表したら褒めてやることを繰り返す。・ 川に興味を持ち見つけようと探す姿があり大きな川もあることを知らせたいと思い北上川を見に行く。・ 川に魚がいることに気付いた子ども

<ul style="list-style-type: none"> ・保：「先生、水がとってもきれいな川、知ってるんだー。ちょっと遠いところなんだけど…」 ・みんな：「どこ？」「行ってみたい！！」 と、興味を示した。 ・保「イワナ捕まえたらどうしようか？」 ・家庭で魚釣りを経験しているS「焼いて食べる」 ・みんな：「いいねー」「食べたーい！」と賛成し決まった。 ・保：「いつ、イワナづかみしようか？」 ・E：「合宿の日は？」 ・みんな：「いいねー」 ・保：「いいねー。合宿の日ならお家の人に準備もしてもらえし、合宿の日にイワナづかみしよう！」 ・みんな：「ヤッター！！」「楽しみだね」「捕まえられるかなあ」「おいしいかなあ」と友だちと喜び合う姿がある。 	<p>も達の姿から日常では体験できない、イワナづかみを合宿で体験させようと考えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イワナづかみに期待がもてるよう色々な川があること、今まで気づいたことを振り返ってから、思わせぶりな口調で話をする。 ・みんなで話し合いイワナを焼いて食べることを一緒に喜び子ども達の気持ちに共感する。 ・気持ちを盛り上げるように保育士も楽しいという表情、声で話を進める。 ・子ども達からの反応、話し合いの様子からイワナづかみの期待が膨らんだことが感じられた。
--	--

《考察》

- 子ども達が興味を示すような言葉かけを行い、期待を高めることが出来た。
- 散歩に行く時は必ず川を意識するようになっていき、帰りの会の振り返りの中で気づきを発表しあうことで川の様子に気づこうとする姿へと変わった。

『泊まるの嫌だな』

園内合宿の日が近づくにつれ、楽しみな反面、保育園に泊まることの不安を見せるH。不安が減るよう「みんなが一緒だよ」ということを感じられる

ように、また、気持ちを楽しみのほうへ向けていく関わりを工夫する。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・園内合宿の話をするとう硬い表情をするHの姿がある。 ・手をつなぎ、ふざけあう姿もあったが、毎日繰り返して行くと、S「Hにパワーあげよう」「みんな、手つないで！」と、まるくなり手をつなぎあう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・園内合宿を楽しみなのか心配なのか帰りの会で今の気持ちを聞く。 ・帰りの会でHの気持ちを受け止めながら、毎日みんなで手をつなぎ頑張れるパワーをあげたり、もらうようにする。 ・子ども達の友だちを思う気持ち、思いやりを大切にしていく。

《考察》

- 手をつなぎ、輪になることで、園内合宿に向けて“友達と一緒に” “みんなまで” という気持ちが膨らむ姿につながった。

『夕飯のメニューを考えよう』

園内合宿の夕飯のメニューを考えるため、まずはグループで話し合いを行い、話し合ったメニューを発表し話し合うことで園内合宿への期待を高める。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・保育士が書いたメニューの中にオムライスが書いてあるのを見つける。 ・K：「R卵食べられないもんね。じゃあ、オムライスはダメだよね。」と、卵アレルギーのRのことを考える。 ・E：「マヨネーズにも卵入っているからマカロニサラダどうしよう…」と、作りたい思いと、Rのことを考えてあげようとする気持ちの葛藤がある。 ・子ども達も喜びRも安心する表情 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもにとって食べることの楽しみは大きいと考え、夕食のメニューは自分たちで決めたものを自分たちで作って食べることにした。 ・子ども達から出たメニューを紙に書きわかりやすくする。 ・保育士が言う前に自分たちで選択肢からはずす子ども達の姿であり、Rのことを考えていることを感じる。 ・Rも食べられるマヨネーズがあることを知らせる。 ・そのマヨネーズでマカロニサラダを作ることを提案する。

があり R 良かったねと共に喜び合う。	
---------------------	--

《考察》

- 以前から R の卵アレルギーについて子どもたちに伝えていたことで、自分達が食べたいものを考えるほかに、R のことも考え、また、気づくことができる姿にやさしさや思いやりが感じられた。
- R 自身も自分のアレルギーについてきちんと理解し、周りに伝えられるようになっていた。

『園内合宿当日』

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・イワナづかみ体験をする事を楽しみにバスに乗って衣川自然塾へ向かう。 ・みんな：「川、発見！！」「今日のイワナづかみの川もあんなに大きい川なのかなあ？」「でも、先生きれいな川って言ってたから違うんじゃない？」「この川、茶色の川だもんね」 ・保：「そうだよ。イワナはきれいな川が好きだから、きれいな川にいるんだよ」 ・雨が降り、川でイワナづかみが出来ないとの話を聞きがっかりする。 ・E：「雨だからしょうがないよね」「みんな濡れちゃうもんね」と気持ちを切り替える言葉もあった。 ・生け簀を見るとがっかりした気持ちはなくなりイワナが生け簀に放されるとイワナづかみへの楽しみが高まる。 ・イワナが怖くつかめなかった S で 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの川を見つけ喜びを友だちと共有し、その声に反応してみんなで川を探し様子を見ようとする姿から、イワナづかみに期待を膨らませていく。 ・濁っている川を見て、もしかしたら川でイワナづかみが出来ないかもしれないことを伝えがっかりする気持ちをできるだけ小さくするよう言葉をかける。 ・イワナづかみに期待が高まっていた子ども達に雨が降り川でイワナづかみが出来ないこと、その代わりに衣川自然塾の方が生け簀を準備してくれ、そこでイワナづかみをすることを知らせた。 ・楽しみな気持ちを持ち直すようたくさん言葉がけをし気持ちを盛り上げるとともに、保育士も一緒に盛り上がる。 ・S がイワナに触れるように、又、

<p>あるが、保育士がつかんでいるイワナを人差し指で触り、少しずつイワナの感触に慣れると、しっぽの方だけ握ることが出来た。触れたことで気持ちに余裕がでて、「あそこにイワナいるよ」「泳ぐの早いね」「体に水玉見たいのがある。」と様々なことに気づく。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとり納得したうえで、食べることができ、また、おいしいと誰ひとり残すことなく、食べることができた。 	<p>怖がらないようにと少しずつ促していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> S子の気づきを近くにいる友だちに知らせると共に共感していく。 イワナづかみを行ったが、残念なことに3月の地震による原発事故の影響から川魚は食べられないことがわかった。子ども達に真実と科学的なことも教えていくことも重大なことだと思い、園長先生から話してもらい食べるのをサンマに代えた。
--	---

《考察》

- 川でイワナづかみをするということを楽しみに園内合宿に向けて話し合いや準備を行ってきたが、雨が降り実現することが出来なく残念だったが、子ども達自身が気持ちを切り替えようとする姿を感じることができた。
- Sの気持ちを汲み取りながら関わることでイワナを触り、また、しっぽを握ることもできた。そのことで、自信にもつながりイワナを捕まえようとする友達を応援したり捕まえると拍手したり友達を思う気持ちが増えた。

研究実践2

《猯鼻溪川下り》

今年1年のテーマでもある一寸法師の話の中にお椀に乗って川をのぼる場面がある。子ども達にも一寸法師の気持ちを感じられるように、また、友だちと一緒に同じ体験をすることで楽しさ、不思議さ、気持ちよさなど共感し合い充実感を味わえるようにと考えた。園外保育で川が合流しているところや船があるところに行ったり川にはどんな魚がいるか図鑑で調べたりと意識付けを行い、延期になっていた猯鼻溪川下りにむけて話し合いを設けた。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・Hが家族で一足先に猯鼻溪に行く 	<ul style="list-style-type: none"> ・Hに猯鼻溪川下りの体験を話して

<p>たことから、行くためには何が必要か等をみんなに話す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保：「お金が欲しいんだね。先生もってないから利江先生に言ってもらわなきゃいけないね。園長先生にも、行っていいですよって言われないと行けないんだよ」 ・S：「園長先生に行ってきたいいですか？って聞こうよ」 ・E：「いつ行くかわからないよ」 ・S：「じゃあ、8月8日狛鼻溪に行ってきたいいですか？って言えば分かるよね。みんなで練習しよう」とはりきる。 <p>—川下りの姿より—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「岩から木が生えてる」「穴があいてる」「木が横に生えてる」「どうやって穴が開いたのかな？」「声が響くね」「船頭さんの歌、昔の民謡みたいな感じの歌だね。」など、自然の大きさ、不思議さなどたくさん気づくことができた。 	<p>もらいみんなで行くためには何が必要か子ども達に考え気づかせ、Hにも自分の経験を友達に伝えることで自信につなげたいと思いつく。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども達から出たことを大切にしながら話し合いに入る。 <ul style="list-style-type: none"> ・周りの景色も見てほしいと、「右も左も大きな岩だね。」と声をかける。 ・気づいたことをみんなにも聞こえるよう大きな声で言ったり、気づきにびっくりしたり、共感する姿を見せると、耳を傾け聞いて探そうとしたり、景色をよく見て気づいたことを話す姿が増えて言った。
--	--

《考察》

- 川下りに向けて何が必要か、どのようにしたらいいのかなど、話し合ったり、主任、副園長、園長に自分たちで聞きに行き、様々な人の理解、協力が欲しいことを知る事ができた。
- 魚の図鑑を見るときも友達と一緒に見ることから、気付いた事、不思議に思ったことなどを互いに言い合い、魚の特徴を発表しあえるほどしっかり覚えようとする自発的な姿があった。
- 川下りに向けての準備を丁寧に進めていくことで、子どもたちの期待を大きく膨らませての体験となり、狛鼻溪川下りに行くために何が必要か、

自然の大きさ、不思議さなどの気づきもたくさんあった。

研究実践3

《係りの仕事》

グループの友達との関係も深まってきたので、仲の良い友達だけではなく、クラス全員との仲間づくりを高めたいと思い、グループ替えを行い、リーダーもグループで話し合っ決めてするようにした。

『Aばかりずるい!』

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">うさぎのお世話が大好きなA。うさぎのお世話になると必ずうさぎ小屋の中の掃除を行う。B、Cはバケツを洗ったり、水を汲みに行く仕事が続く。C:「Aだけ同じ掃除しかしない。ぼくだってしたいのに。言ってもかわってくれない。」と言いにくる。Aは仕事をかわらず自分がやりたい仕事をする。Aは自分の話だと気づく。みんな:「かわりばんこでするんだよね。」「話して決めるんだよね」保:「そうだよね。グループのみんなでするんだもんね。」	<ul style="list-style-type: none">リーダーのAが相談して決めて欲しいと願いながら様子を見守る。Cの気持ちを受け止め、AにCの気持ちを保育士からも「CくんもAくんと同じようにうさぎ小屋をほうきで掃く仕事したいのにかわってくれないって困ってるよ。グループで話し合っ順番で色々な仕事をするんだもんね。同じ仕事だけじゃなく色々な仕事をするよう相談して決めてね。」と伝える。保育士の話、Cの話を聞いてAは、相談するのか、どのように動くのか離れた所で見守る。Aの姿が変わらずリーダーだから決めていいという気持ちが強く感じられたため、帰りの会でみんな考えようと、名前は出さずAの姿の話をする。グループのみんなで行っているんだということを感じる機会を設けた。

<p>—次の日—</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前日と同じ仕事を行っており自分の思いを押し通し、行う姿があった。 ・次の日のうさぎのお世話係では交換してうさぎのお世話の仕事を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昨日の話がAに届き、話し合えるのか様子を見る。 ・もう一度帰りの会でリーダーとはどういうことか、どうあるべきかをAを主に見ながら話をする。
---	---

《考察》

- グループのメンバー、リーダーを自分たちで決めることでリーダーだという意識を持たせることができた。しかし、保育士が声をかけた時だけとなってしまうグループもあり、リーダーだけではなく周りの子も協力しようとする気持ちを持たなければリーダーの自覚につながらないし、グループ意識も育たないと感じた。
- 6人のグループを作ることで自分の思いを発言したり、友だちの話も聞きやすくなり、今まであまり発言しなかった子も自分の思いや考えを言えるようになってきている。
- リーダーが一人で決めていい、リーダーはえらいという気持ちが強かったAであったが、リーダーとは何かをみんなで確認することで意識が変わった。

研究実践4

《劇あそび》

表現発表会の劇をととても楽しんで行い、子どもたちは役になりきって演じたくさんほめられ自信をつけた。友達のいいところを認めてあげられる姿が多く見られるようになったので、グループの友達と一つのものに向かってやり遂げる達成感や充実感を味わえるようなかかわりの工夫をしていきたいと考えた。もっと劇あそびができるように考えていると、主任から子どもが主体になるような環境を作ることが大切であり、必要であると教えてもらい、さっそく今までの表現発表会で使ったお面の段ボールを置くと、「これ何？」と気にするSの姿があった。歌、踊り、演じることなど好きなSだが、初めてのことに對し行う前からあきらめたり、自信がもてず一人では行えないのであった。Sはお面を気にしながら、また、保育士にも使っているよと言われるものの友達の様子を伺っていた。友だちがお面を使って遊び始めるとSもお面を使って遊び始める。

『劇あそび楽しいね』

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ Sがお面をつけて友だちと動物の動きをして楽しむ姿がある。 ・ 2～3 人の仲の良い友達同士でグループになり劇ごっこを楽しんでいる。 ・ 小さなグループでの活動にとどまり、クラスでの遊びに繋がってこない。 ・ 保育士が遊びの中に入り一緒に楽しむことで小さなグループが少しずつ大きなグループへ変化する。 ・ みんな：「やりたい」と急いでやりたい動物のお面をかぶる。 ・ みんな：「もう 1 回やりたい」「ちがう役でやりたい」「明日もやろうね」「違うお話でやりたい」と口々に言う。 ・ S：「ブレーメンの音楽隊」 ・ K：「3 匹のこぶた」 ・ E：「ヘンゼルとグレーテル」がでる。 ・ H：「ブレーメンの音楽隊知らない」 ・ Y：「ヘンゼルとグレーテルってどんなお話？」としっかり分からない子もいる。 ・ S：「3 匹のこぶたなら知ってるんじゃない？」と言いみんなが賛成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ クラス全体で劇あそびにつなげられるよう、保育士も一緒にお面をつけ遊ぶ楽しさを周りに伝える。 ・ 子ども達の姿から全員で劇あそびを楽しむには始めは簡単なお話にするほうが取り組みやすいと考え『てぶくろ』で即席劇をすることを提案する。 ・ どんな姿の動物がいいのか同じ役をする友達と決め子ども達が主体的になるよう関わる。 ・ 次はどんな話ですか聞く。 ・ みんなが知っている話のほうが劇作りで色々なアイデアが出るのではないかと考える。みんなしっかりお話が分かるものの方がやりやすいかもしれないことを伝える。 ・ Sがみんなのことを考え提案する姿を丁寧に受け止める。

《考察》

- ちょっとした環境構成で子どもたちの興味が向き、そこから遊びが展開し自発的に取り組む姿となっていく。
- 友だち同士で意見がぶつかり合う中で、全て保育士が仲立ちしなくても解決しようとする姿が少しずつ増え、相手の考えを知る、認める、譲ること

が自然にできるようになった。

『2つに分かれての劇』

グループで話し合いをし、自分たちで考えた子ども一人ひとりが思える劇になるよう話し合いの様子を見ながら保育士の関わりを行う。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・ S、Eがリーダー的存在となりアイデアを出したり話を進める。・ 話し合いに参加しない、同じ子だけが話をする姿が目立つ。・ リーダーの役割が分からず、また、自信がないため困った表情をするR。・ 保育士の言葉で、リーダーの役割がわかるが、どのように言ったらよいかわからない。・ リーダー同士でどのように話をするか、打ち合わせてする姿が多くみられるようになるR。・ S：「こういう風に動いてみて」と動きを教えたりセリフを教える。・ R：大道具作りで飽きて作らないでいると「おわらないよ」「Hも手伝って」と言う。	<ul style="list-style-type: none">・ みんなで話し合いが出来るよう、また、発言できるよう1日交代のリーダーを作れることを伝え負担にならないように2人組みのリーダーで進めていくことを子ども達と決める。・ Rにリーダーはみんなの話を聞くこと、話を聞いてどうする？と相談することと、役割を伝える。・ どのように言えばよいのか具体的に教え、進め方を知らせる。・ 同じ場面になり、今度はグループで教えあえるようにと思い、周りの子どもたちにもリーダーが何を言ったらいいかわからないときは教えてあげるよう伝える。・ Sの自発的に動く姿を見守る。・ Hの姿が気になりグループで作っていることを本見だけでなく、グループのみんなにも感じて欲しいと思い、リーダーのRに話をする。

《考察》

- 二人組のリーダー制を取り入れていくことで、今まであまり積極的に自分の思いをみんなに伝えることがなかったRが「これから練習始めるよー。」と、大きな声で言ったり、準備ができたか確認を行ってから始めようとする姿が見られるようになったり、大道具作りで「はしご作るの大変だからR手伝ってあげる!」と積極的に動くRであり、自信につながっ

た。

- Sの劇に対する頑張りや、グループのみんなで行っている気持ち、アイデアについても練習中や終わった後にみんなの前で褒めることを多くし自信につながるようかかわった。まだ、初めてののことに對し、消極的な姿もあるが前向きに考えられるようになっていくことが行事や活動を通して感じる事ができた。

『足を怪我したH』

Hが足を怪我し、劇中になわとびができない状態となった。グループでなわとびから他のものに変えようと話し合いをする気持ち、友だちを思いやる気持ちを持って欲しいと思い、保育士はあえて声をかけず見守った。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・中ブタ役を大変そうに演じているHの姿に気づくS。・S：「H怪我してるからなわとびじゃないのにしよう」・K：「おはじきは？」・S：「見えないよ。手遊びならHも出来るよね。先生、H縄跳びできないから手遊びに変える。」 と報告に来る。	<ul style="list-style-type: none">・Hの姿に気づいたSの気持ちを大切にしたいと思い、報告に来た時、Hの大変さに気づいた優しさを褒める。劇が終わってから他のグループにも知らせSの優しさをみんなで共有する。

《考察》

- 劇だけでなく帰りの会で座ってまるくなる際、座るのが大変なHに椅子を持ってきてあげたりと生活の中で友達を思いやる気持ちが増えた。

『劇をお家の人に見せたい！！』

劇を見せたいと子ども達から出たので劇場ごっこへと展開し、子ども達の成長の姿を保護者とともに感じあえる場、子どもを認めそれがそのこの自信になる活動とする。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none">・子ども達から劇をお母さんに見せたい、小さいクラスに見せたいと出る。・保：「お家の人に見せるとき何か欲しいかな？」	

<ul style="list-style-type: none"> ・ Y : 「招待状！」 ・ 保 : 「そうだね。招待状あったらお家の人たちいつ来たらしいのわかるね。後は何か欲しいのあるかなあ？」 ・ みんな : 「・・・」 ・ 保 : 「映画館に行ったことある？そのときどうやって入ったの？」 ・ S : 「チケット買った」 ・ K : 「立ってる人に渡した」 ・ 保 : 「そうだよね。チケットないと映画見られないんだよね。」 ・ S : 「チケット作る！！」と楽しみにする。 ・ みんな : 「1列じゃ入らないよ」「2列になってみよう」「入ったよ。いいんじゃない！？」 ・ 保 : 「後ろの人見えるかなあ？」 ・ みんな : 「前の人がおひざ抱っこで座ったら見えるよ」「前の人の中に座れば見えるんじゃない？」「椅子やってみようよ」「これならよく見える」「いいねー！！」 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の今までの経験から招待状がほしいということがでる。その意見を大切にしながらチケットという言葉を引き出すため映画館の話をする。 ・ お客さんにどこに座ってもらうか考えるが、イメージがわからないためグループに分かれてお客さん役になって動いて実際に確認しようとする子ども達の姿、気づきにお家の人に見せることに大きな期待を持ってることを感じた。 ・ 子ども達が考えてやってみる姿を大切にしていき、話に入る。
---	---

《考察》

- 保育士と子ども達でのやりとりで、グループで考えを出し合い、決めていける力が大きく育った。
- 自分たちで劇を作った、みんなでがんばったと一人ひとりが思える進め方、言葉がけのむずかしさを感じるとともにその大切さを感じた。

『保育参加日当日』

お母さんブタ役のMが休む。今までグループで話し合い、決めてきたので最後までグループで話し合っ決めてほしい、やり遂げる達成感を味わわせたいと思い保育士は出来るだけ声がけも少なくするよう心がけて関わる。

子どもの姿	保育士の思いと関わり
<ul style="list-style-type: none"> ・ どうする？とグループでまるくなり話し合いを始める。 ・ K「どうする？Rやる？」 ・ R「うん！」 ・ お母さんブタ役をRが堂々と演じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ グループで話し合い、お母さんブタ役をどうするのか決めるよう声を掛ける。 ・ そばについていたかったがもうひとつのグループの準備にもついていたので子ども達に任せた。 ・ KがRの表情を見てお母さんブタ役をやりたそうにしていることに気づく。 ・ Kが小さな気づきを汲み取り、Rの背中を推してあげた事、気づきを褒める。

《考察》

- Kに背中を押されお母さんブタ役を演じたRにとって、大きな自信へとつながった場面であり、Kが友だちの表情を見て気持ちを察する力が育っていたことを感じた。

7. 研究の成果と考察

- ・ 共に同じ体験をし、共感し、また、グループでの話し合い、クラスでの話し合いを設け友だちの意見を聞き、自分の思いを伝えることをこの1年で多く取り入れて大切に進めてきたことで、友だちの思いも受け入れられるようになっていった。
- ・ 仲間と一緒に一つのものに向かって進んでいく、協力して作る、考えを出し合う、子どもたちの気づきを認めていくことを繰り返し行っていく中で、友だち同士でも助け合う姿がたくさんみられるようになっていった。それが積み重なり自信へとつながっていったのだと感じる。
- ・ 仲間意識を育てようと思い、1年間取り組んできた。常に、クラスみんなでということの思いながらかわり一人ひとりを大切にすることが仲間意識を育てているのだと1年を通して感じる事ができた。一人ひとりが育つこと＝仲間意識が育つということはこの1年間実践を通して学んだ。

8. 今後の課題

次年度たくす小学校への進級は『生きる力』が身につくようにと考え、取り組んできた。保育所保育指針にも友達など相手のことを受け止められる気持ちを持ち、主体的、前向きに取り組み、具体的な姿勢や行動として示すと

記述してある。一人ひとりの気づきや思いをしっかり受け止め、認め、褒めていくことで子どもたちは優しさ、思いやり、自信、次の意欲へとつながっていくことを感じた。一人ひとりの個性を認め、活動する楽しさ、喜びを仲間とともに感じられる集団を作っていくことは、小さい頃の大人との信頼関係を土台として作られていく。これからも「一人一人を大切にする保育」にこだわり研究をすすめていきたい。